高知県立大学　看護学部　学生生活通信　　2015年2月　第8号

fure-fure

高知県立大学　看護学部
Faculty of Nursing University of Kochi

U.K.
Faculty of Nursing
University of Kochi

健康長寿センター長　池田光徳

大学には教育、研究および社会貢献の3つの使命があります。高知県立大学では、社会貢献を「地域が大学を変える、大学が地域を変える」ととらえ、「社会貢献＝域学共生」を推進しています。

健康長寿センターでは、公開講座や体験型セミナーなどを通じた「県民に向けた保健福祉の啓発活動」、「地域の医療専門職者の知識と技能の向上（リカレント教育）」、「高知医療センターとの共同事業」、さらに土佐市など市町村との「健康に関わる地域連携事業」を行っています。

池キャンパスにある看護、社会福祉および健康栄養学部から選出された教員が、学部横断的に参画して事業を企画・運営しています。センター活動は単に地域住民へのサービス事業ではなく、大学が担うべき教育・研究の一環として事業を展開しています。高知県内3か所で開催する「健康長寿体験型セミナー」や土佐市と連携した「とさっ子健診」では、池3学部の学生が積極的に参加しています。三里地区で秋に開かれるみさとフェアでは高知医療センターと一緒に「健康チェック・健康相談」のブースを出展していますが、これにも本の読み聞かせや血圧測定のコーナーに学生が加わっています。センター事業を通じて他学部生との共同作業を行うことで、専門職連携教育（IPE）が進められると考えています。センター事業で集積した知見は、健康長寿センター活動報告書のみならず、教員が関連する学会にも発表されています。

みさとフェアにて

子どもたちと食育カルタ中です

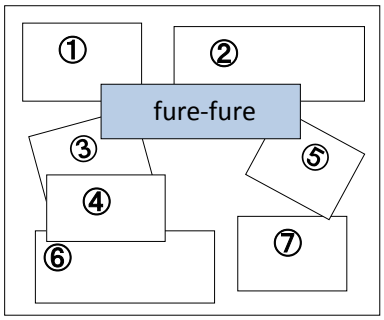
学生支援課　筒井加奈

学生からの相談を受けているところです

学生委員会では、3年に1度に「高知県立大学学生生活実態及びニーズ調査“快適で有意義なキャンパスライフのために”」を実施しています。各キャンパスには普段からオピニオンボックスが設置され、いつでも意見を言えるようになっていますが、学生生活の現状を把握し、また学生のニーズを知ることで、よりよい修学支援や施設の整備などにつなげていくための参考資料として、全学部生を対象に調査を実施しています。調査項目には大学での学習環境や内容、施設や設備、課外活動、健康など大学生活にかかわる幅広い質問項目が設けられ、無記名で回答するようになっています。前回（平成24年度）の調査の際にインターネットの利用状況や災害対策などの項目を新たに設けました。

前回の調査では、891名（全体の約81%）の学生から回答がありました。この調査結果を学部別、学年別で比較することで、明らかになった課題等を各学部で話し合い、改善に生かしました。また調査には自由記載欄があり、大学への要望も書けるようになっています。いただいた要望については、担当部署に内容を伝え、なるべく要望に応えられるようにしています。平成26年10月に実施した調査では、研究室の訪問に関する設問や、就職相談室、健康管理センターの利用の有無に関する設問を新たに設けました。1,005名（全体の約85%）の学生から回答があり、現在集計中です。学生員会では改善に取り組んだ成果の分析や、学部別、学年別の比較などを行い、引き続き学生が“快適で有意義なキャンパスライフ”を送れるようにしていきたいと考えています。

表紙の写真



①大学祭にて：　2回生

②クリスマス会にて：　4回生

③みさとフェア（ボランティア）にて：　2回生

④医療センターとの合同災害訓練にて

⑤大学祭にて：　サークル

⑥クリスマス会にて：　1回生ダンス

⑦クリスマス会にて：　3回生

1回生

大学生活は後期に入り、『薬理学』『診断学』など専門科目の学びを深めるとともに大学行事などに全員で取り組んでいます。写真は11月の大学祭の様子です。1回生は唐揚げ、フライドポテトの模擬店の準備から仕入れ、調理、販売を行いました。当日はお揃いの茶色のTシャツを着て元気な呼び込みを行い、準備した唐揚げとポテトは完売となりました。12月にはクリスマスパーティーに参加し、スタンツとしてダンスを披露し、2～4回生・教員との交流を深めました。このように様々な学生主体の行事に積極的に取り組むなか、一つの目標に向かって皆で取り組むことでクラスが一つになれたことの喜びと重要性を学びました。また、12月16日からは「ふれあい看護実習」に臨みました。初めての看護実習で緊張していましたが、看護師や他職種の方々のお話を聴き、看護師の役割について考える機会になりました。

2回生

12月13日に看護学部の伝統であるクリスマスパーティが行われました。この、クリスマスパーティーは、看護の学部生や大学院生、教員が交流する場で、毎年2回生が中心となって運営しています。今年のテーマは【「愛」すべての出会いに感謝して】でした。2回生は10月から2か月間、何度も話し合い、プログラムの企画を練り、手書きの招待状作り、会場の準備を進めてきました。それとともに、授業のない空き時間を利用して、自分たちが発表する合唱の練習を何度も行いました。その結果、当日は素晴らしいハーモニーと手話を用いての合唱を披露し、参加した学生・教員一同感動しました。また国家試験勉強に励んでいる4回生には、2回生による手作りのアルバムをプレゼントし、とても喜んでもらえました。クリスマス委員を中心に2回生全員が見事なチームワーク力を発揮し、【「愛」すべての出会いに感謝して】にふさわしい学年間を超えた交流ができ、とても楽しい時間を過ごせました。

3回生

3回生は10月から2月まで、急性期看護、慢性期看護、精神看護、小児看護、母性看護、地域看護の6領域で、各2週間の実習をしています。地域看護実習では、地域住民の方への健康講座を企画します。11月のグループは、「アンパンマンとにこにこはみがき」というテーマで健康講座を実施し、自分たちが伝えたいことだけを押し付けるのではなく、参加者の反応を見ながら、そのニーズに寄り添うことの大切さを学んだようです。一つ実習を終えるごとに、学生の表情が豊かになり充実していることを感じます。患者さんや地域の方々、各施設でご指導くださる皆様の温かいご支援に深く感謝しております。

4回生

4回生は全員、4月からの進路が決まり、社会人としての第一歩を踏み出す準備ができました。11月には最後の臨床実習である在宅看護実習と看護実践能力開発実習を終え、12月には1年間かけてエネルギーを注いで取り組んできた看護研究、いわゆる卒業論文も無事に提出しました。そして現在は、国家試験に向けてのラストスパート中です。看護専門職者として必要な知識や判断力を確実に身につけようと、問題集を何度も解きながら、これまで学んできたことを整理し、曖昧だった根拠を一つ一つ確認しています。その膨大な量に、人の健康を守る専門職としてのライセンスの重みを実感しています。教室や図書館、各階のフロアなどでは、マーカーやふせんがたくさんついた問題集や参考書を広げ、真剣な表情で必死に勉強している姿を見かけます。本番まで約1か月となり、焦りや不安が大きくなる中で、全員合格を目指してクラスメートと支え合いながら頑張っています。

教育の工夫

実践力を高める教育　～看護実践能力開発実習～

近年、入院期間の短縮や高度医療、患者の重症化、倫理的課題などにより、看護基礎教育の実習で経験できる看護技術が限られる傾向にあります。このような状況に対して本学部では、ハードとソフトの両面で教育環境を整え、様々な工夫をしています。平成25年度からは、4年次の最後に、これまで習得してきた知識・技術・態度・行為を統合し看護実践能力を高めることを目標として、DVD（事例）を用いた新たなシミュレーション学習を取り入れた実習を始めました。この実習では、2週間の間5～6名の学生を1名の教員が担当し、新人看護師が臨床で対応を求められる機会が多い看護場面、臨地実習において学生が受け持つ機会が少ない患者の看護場面、複数の技術の組み合わせや工夫が必要な場面のDVDを通して、より実践に近い看護技術を磨き、実践力を高めていきます。

学生からは、「4年間の授業で学んだことや実習・演習で実践してきたことを総動員して事例を考えることができ、バラバラだった知識が少しずつ繋がった」、「今までの知識も使って考えられたので学んだ知識が使える知識になった」、「できる看護技術が増え、自信を持つことができた」等の声が聞かれます。学生は4年間の講義・演習・実習において学んだことを引き出し統合して、想像力と創造力を働かせ、積極的に技術の習得をしようと取り組んでいます。数か月後の看護職者として患者様の前に立っている自分の姿を想定して、活き活きと実習をする様子は頼もしく輝いています。教員は学生の疑問を大切にし、わかったと思えるまで向き合ったり、自信が持てるまで繰り返し技術練習ができるよう環境を整えたりしながら、支援しています。今後も、社会的要請や学生のニーズを捉えながら、学生の力を引き出す、そして、臨床実践と繋がった教育方法の工夫を続けていきたいと思います。

学生さんからのメッセージ

3回生の夏、私たちは3泊5日でカンボジアに行き、世界遺産のアンコールワットやトレサップ湖などを観光しました。現地の食べ物などを知りたいと思い、現地の人が利用する市場やレストランに行きました。そこで現地の人たちと触れ合い、言葉が通じなくても、表情や身振り手振りでコミュニケーションを図ることができました。この体験をとおして、言葉だけではなく表情や動作などからも相手の気持ちを読み取ることができるということを実感しました。看護においても対象者の気持ちやニーズを理解することは重要です。今回のカンボジアでの経験を通して、国籍や、年代、生活背景が違っても、その人のことを理解しようとする姿勢が大切だということを学びました。これからも様々なことにチャレンジし、色々なことを学び、感じていきたいと思います。

3回生　下田愛季　武智まりか

高知県立大学に入学した時は期待と不安でいっぱいでした。看護学部ということもあり、男子の人数の少なさが心配でしたが、現在では多くの学友に恵まれ楽しく大学生活を送れています。様々なことに自主的に取り組むようになりスケジュール管理に気を配るようになりました。初めてのふれあい看護実習では看護師の仕事に触れ、これからの学びの意欲となりました。また、看護学部1回生有志のみで立ち上げた立志社中という活動では、福島の被災地の方々に高知に来ていただきリフレッシュしてもらう活動を行いました。これから実習なども増え、より本格的に看護を学ぶことになりますが、1回生で学んだことを踏まえ、これからの勉学に活かしていきたいと思います。

1回生　大宮凌　杉本和幸

〔ニュースレターの名前の意味〕fure-fure　学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。　fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp